

# 横浜市インフルエンザ流行情報 7号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

## 《トピックス》

### B型の報告が増えています。

#### 【概況】

横浜市全体の2018年第1週(1月1日~7日)の定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は、流行注意報が発令された第51週の14.29<sup>※2</sup>、第52週の16.87<sup>※2</sup>から減少して、**9.56**となりました(減少した原因は本文参照)。

年齢別では、第1週で10歳未満の報告が全体の約4割、10歳以上15歳未満の報告が全体の約1割となっており、小児の報告が約5割を占めています。

学級閉鎖等は、冬休みのため第52週と第1週には報告がありませんでしたが、第2週以降の報告数の増加が予想されます。また、新たに病院や高齢者施設での集団発生も報告されています。持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

迅速診断キットの結果は、これまでA型が多く検出されていましたが、B型が増加し、第1週では**A型43.7%**、**B型56.2%**と、B型が多く検出されています。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、正しい手洗い<sup>※3</sup>等の予防や早期受診などの対策<sup>※4</sup>が重要です。

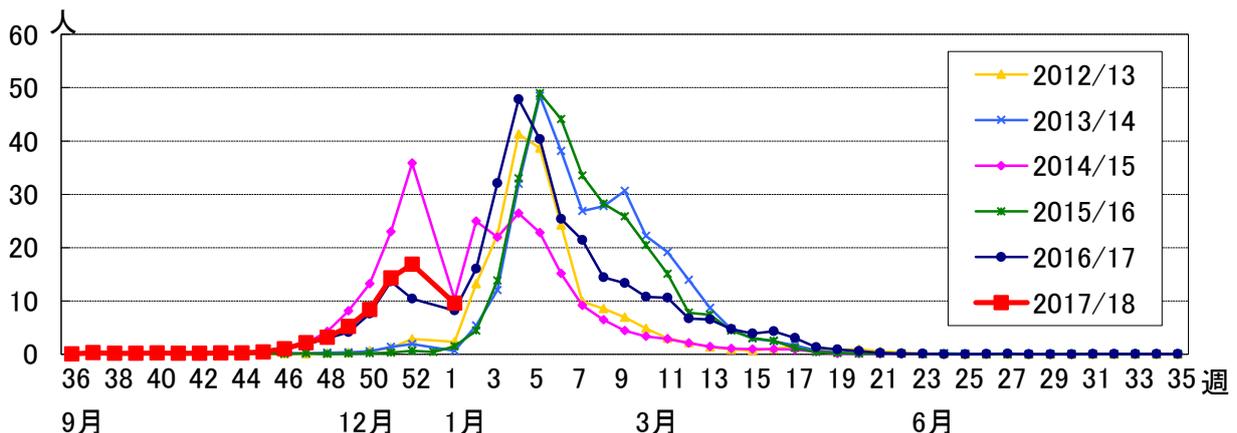
※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

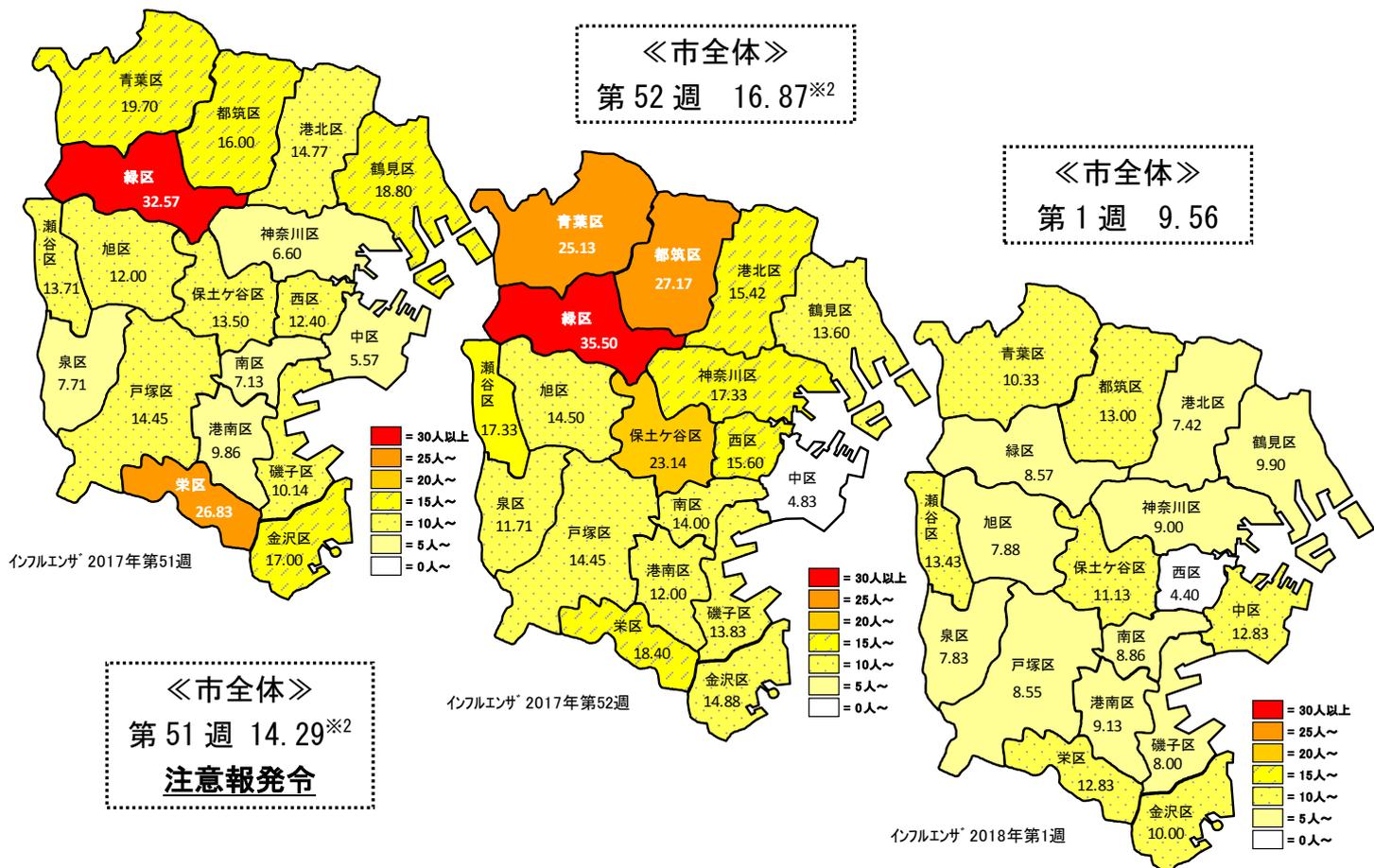
※3 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※4 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

- 1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、流行注意報(基準値:10.00)が発令された第51週の14.29<sup>※2</sup>、第52週(2017年12月25日~31日)の16.87<sup>※2</sup>から、第1週(2018年1月1日~7日)では9.56となっています。これは年末年始にて定点医療機関が休診中のことが多いため、流行の実態を正確に反映していないことが考えられます。



## 2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

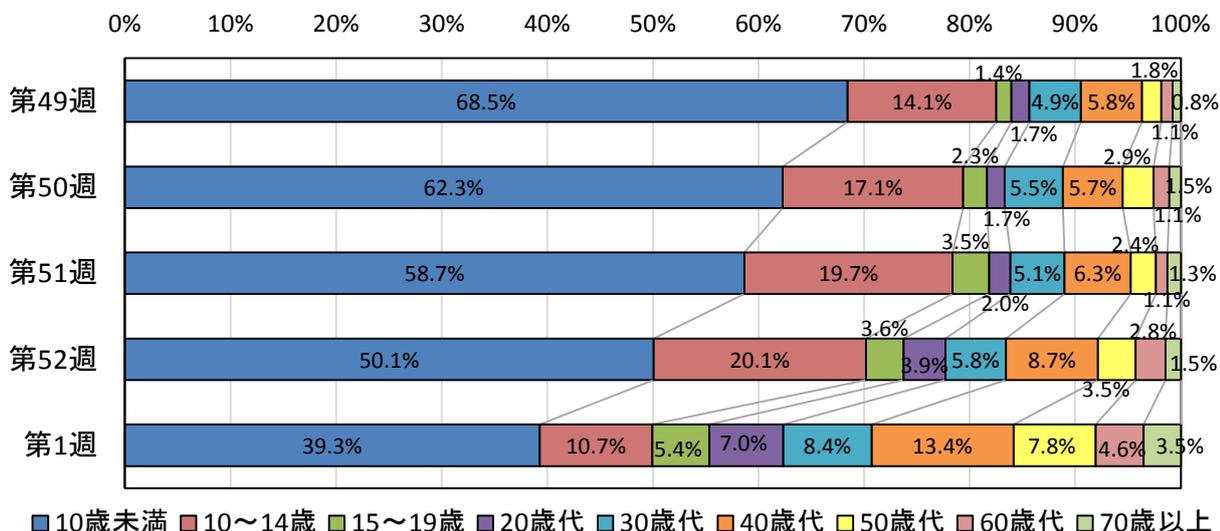


第51週にて、市内全体で定点あたり10.00を超えたため、流行注意報が発令されています。

市全体で定点あたり30.00を超えると、流行警報が発令されます。昨シーズンは第3週(平成29年1月16日~22日)で発令されています。

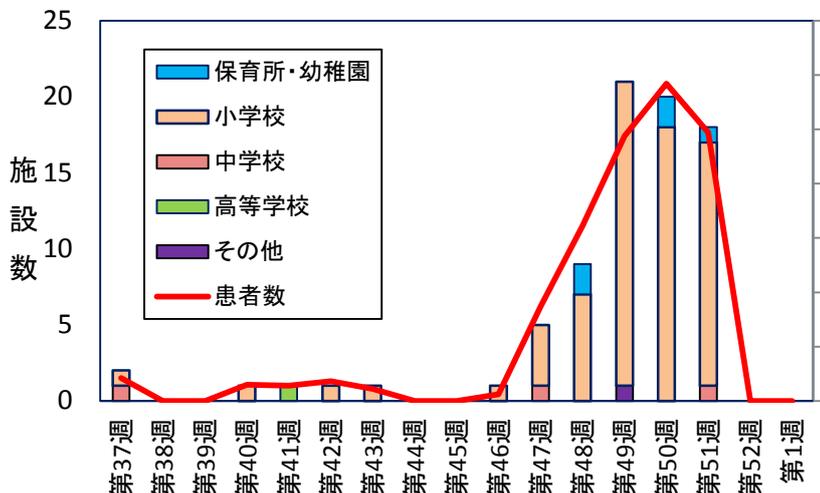
3 年齢層別集計: 第1週の患者年齢構成は、10歳未満が全体の39.3%、10歳以上15歳未満が全体の10.7%を占めており、15歳未満が全体の50.0%を占めています。また、60歳以上は全体の8.1%となっています。経過とともに、15歳未満の占める割合が減少しつつあります。

年齢層別患者割合

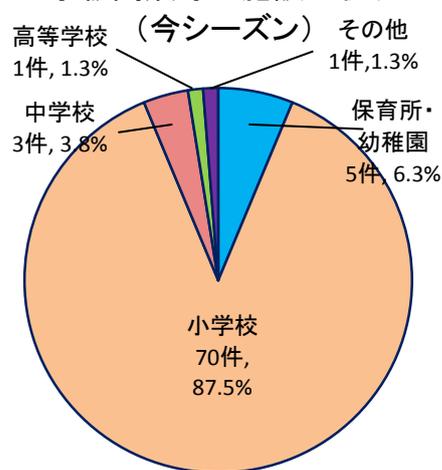


**4 市内学級閉鎖等状況:**第 52 週と第 1 週は冬休みのため、学級閉鎖等の報告はありませんでした。今シーズンの報告は累計 80 件、患者数は延べ 1,116 人となっています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園 6.3%、小学校 87.5%、中学校 3.8%、高等学校 1.3%、その他 1.3% となっています。第 2 週より授業が開始されるため、今後、学級閉鎖等の報告の増加が予想されます。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移



学級閉鎖等の施設の状況 (今シーズン)

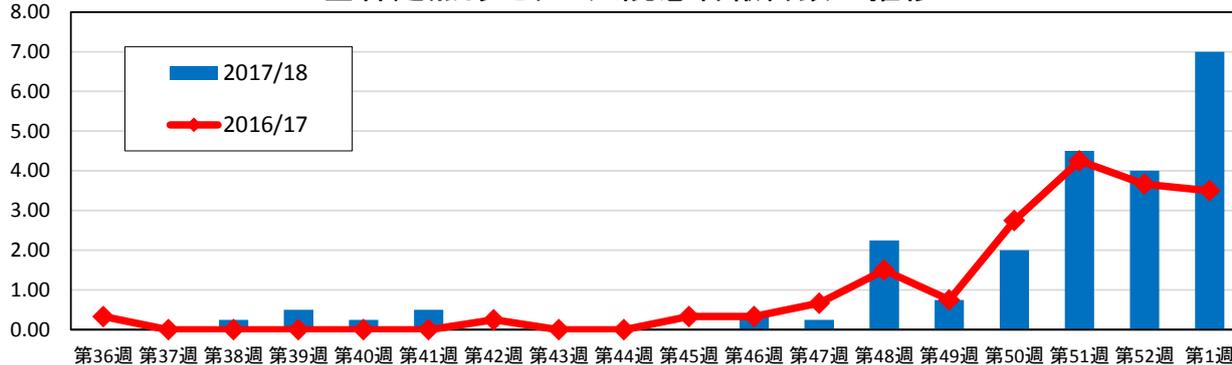


**5 入院サーベイランス:**市内基幹定点医療機関<sup>※5</sup>におけるインフルエンザ入院患者は、第 52 週は 8 人、第 1 週は 14 人の報告があり、累計 68 人となりました。うち、15 歳未満が 18 人、60 歳以上が 39 人となっており、小児と高齢者の報告が多くなっています。

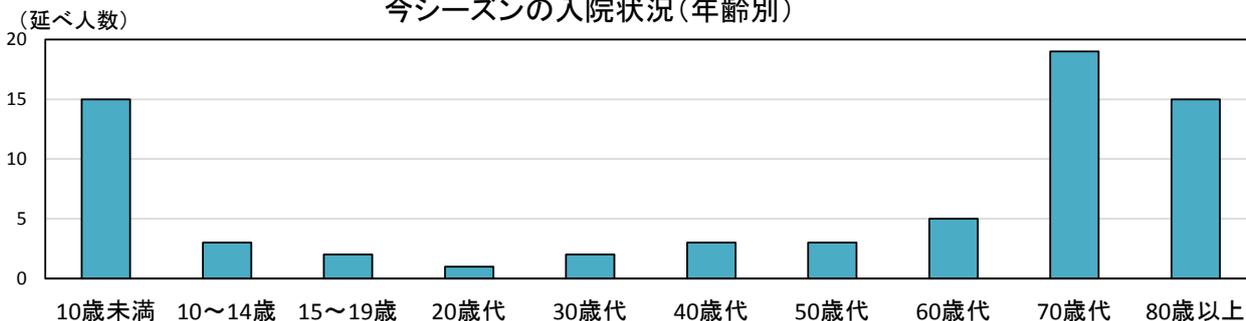
入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査等が実施された重症肺炎やインフルエンザ脳症が疑われる入院患者は、第 52 週では 0 人、第 1 週では 1 人の報告がありました。

※5 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

(人) 基幹定点あたりの入院患者報告数の推移



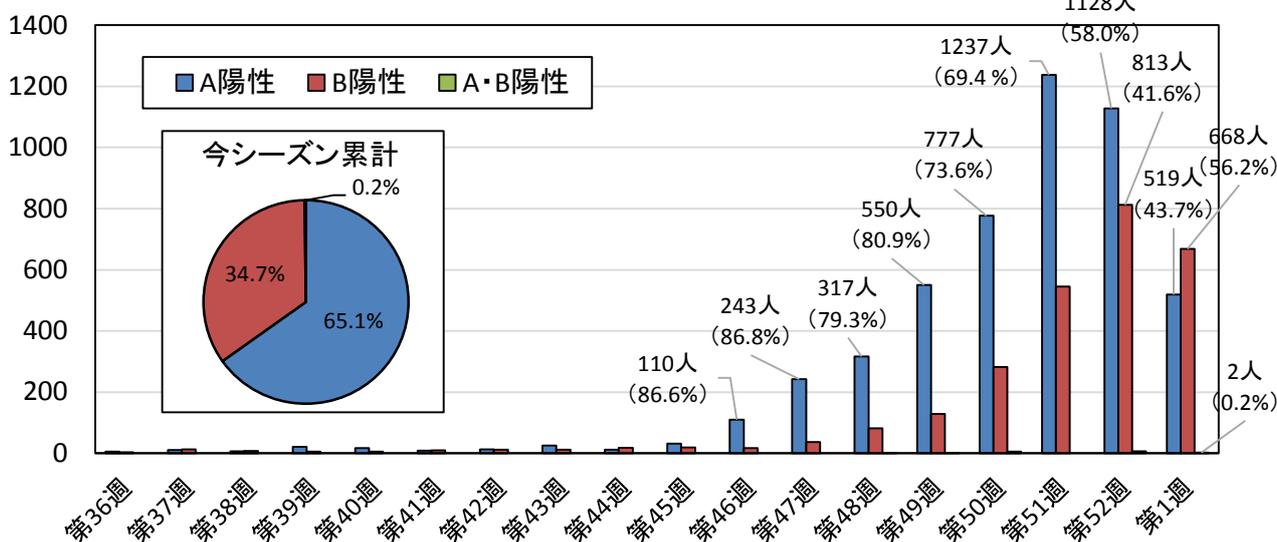
今シーズンの入院状況(年齢別)



**6 インフルエンザ脳症等の重症例:**第 50 週に 10 歳未満の肺炎の報告が 1 件、インフルエンザ脳症疑いの報告が 1 件、第 51 週に 10 歳未満の肺炎の報告が 1 件あり、いずれも AH1pdm09 が検出されています。今シーズンは、現在までにインフルエンザによる急性脳炎の届出はありません。

**7 迅速キット結果:**これまでの経過では A 型が多く検出されてきましたが、第 50 週頃より B 型の割合が増え始め、第 1 週の迅速キットの結果では、A 型 43.7%、B 型 56.2%、A・B 型ともに陽性 0.2%と、B 型が A 型を上回りました。年末年始にて定点医療機関が休診中のことが多いため、流行の実態を正確に反映していない可能性もあり、小中学校の授業が開始される第 2 週以降の推移を注視していく必要があります。今シーズン累計では、A 型 65.1%、B 型 34.7%、A・B 型ともに陽性 0.2%となっています。

横浜市の患者定点医療機関における  
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)

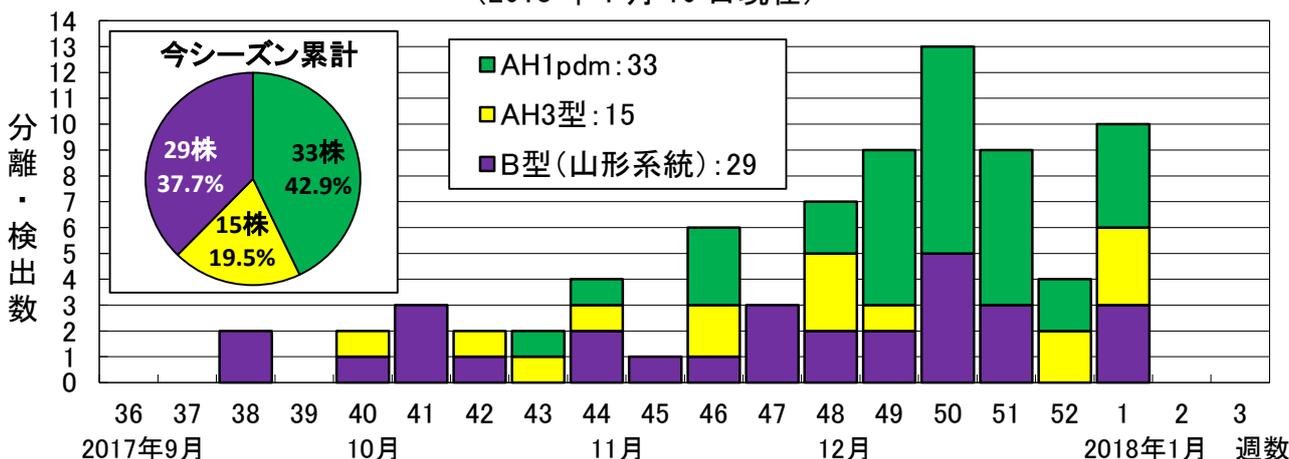


**8 市内病原体検出状況:**市内では病原体定点<sup>\*6</sup>から AH1pdm(33 株)、AH3(15 株)、B(山形系統)(29 株)が分離・検出されており、直近では、主に AH1pdm と B(山形系統)が分離・検出されている状況です。なお、B ビクトリア系統は市内にて分離・検出されていません。

<sup>\*6</sup> 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2018 年 1 月 10 日現在)



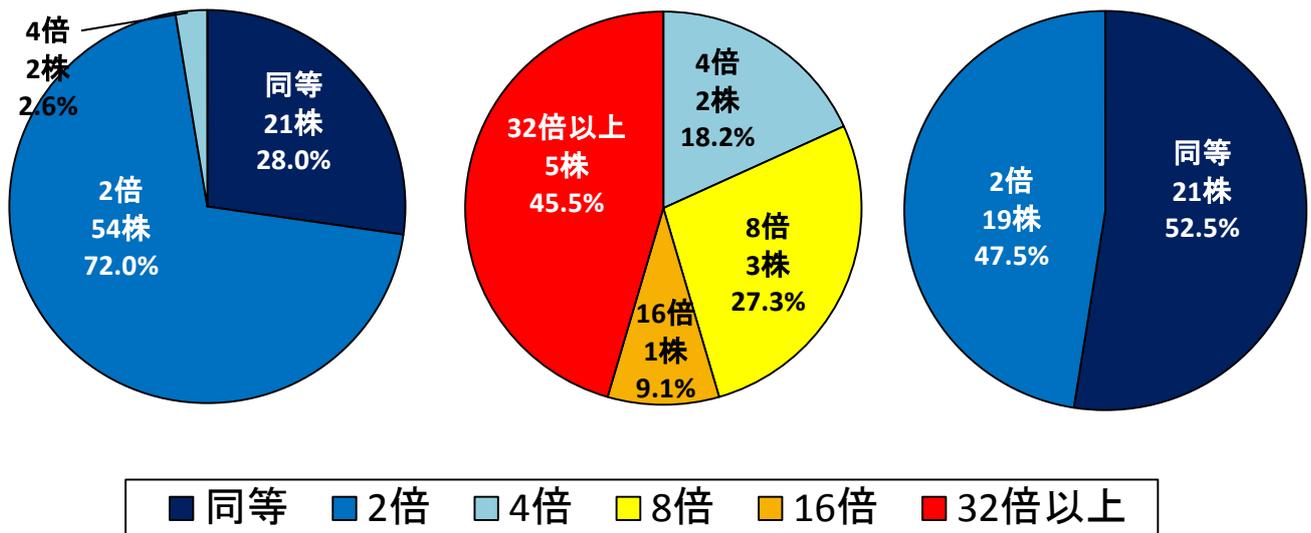
9 分離株の抗原性解析:市内で分離された株(細胞培養した 128 株、1 月 10 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)を実施しました。あくまでもウサギの血清を使っているため参考値ですが、ワクチン類似とされているのは4倍以内です。AH3(11株)は、2株が4倍でしたが、9株は8倍以上でした。AH1pdm(77株)とB山形系統(40株)は、すべて4倍以内となっています。正式な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要がありますが、時間がかかることが予想されます。

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析

AH1pdm 抗原性解析(77 株)

AH3 抗原性解析(11 株)

B 山形系統抗原性解析(40 株)



10 薬剤感受性検査:第 50 週に学童の患者から採取された AH1pdm09 型で、当研究所の検査にて抗インフルエンザ薬耐性が疑われた株(1株)について、国立感染症研究所において薬剤感受性検査が実施された結果、オセルタミビル(商品名タミフル)およびペラミビル(商品名ラピアクタ)に対する感受性が低下していました。ただし、タミフル投与 4 日目に採取された検体であり、治療によって耐性株が誘導されたと考えられます。当該患者と同じ集団に属する他の 2 名の患者から分離されたウイルスは感受性株でした。そのため、現在、耐性株が流行している状況ではないと考えられます。なお、市内にて他に耐性株は検出されていません。

(参考)[抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス\(2018 年 1 月 9 日\)国立感染症研究所](#)

※参考リンク

近隣自治体の流行状況

- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237  
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2445